

動物

の

診察室

から

○ 20 ○

今年の一月六日、犬のテツちゃんは、お母さんたちにもとられ、おうちで眠るように息を引き取りました。年は十七歳半でした。

テツちゃんは、少し毛の長い、中型の雑種犬です。特に大きな病気もなく暮らしていました。十五歳の時に突然に脳神経の症状が出ました。一昨年の暮れには、慢性の

天国のテツちゃん

毎日の通院 家族に感謝

貧血があり精密検査を行ったところ、肝臓に腫瘍が見つかりました。腎臓の機能も低下していて、三月からは、毎日治療に通うことになりました。

高齢の上、肝機能、腎機能の低下、貧血もあるため、数カ月余命かと推測されました。でも、テツちゃんは夏も乗り切り、秋も乗り切りました。

テツちゃんのお母さんは、昨年三月から毎日病院へテツちゃんを連れてきます。体重が十三キログラムで、お母さんには少し負担になります。そして、よたよたと歩くため、足の先をすりむいてしまっています。病院で前足は包帯を交換するのですが、後ろ足は毎日お母さんが靴下を交換しています。「毎日だと、旅行も

いけませんね」とお話しすると「テツと病院に来るのが、私の仕事ですから、旅行はいいです」と話されています。

十二月になると、食事は取れていたのですが、慢性の貧血は徐々に進行



輸血を受けていたテツちゃん

から、急に横になったままキャンキャン鳴くようになりました。モルヒネで痛みをとる治療と、脳

から、急に横になったままキャンキャン鳴くようになりま

お母さん、長い間ご苦労さまでした。お母さんたちがテツちゃんを励ましてかわいがってあげたの

で、もうだめかと思っただけで、もう半年もテツちゃんから半年間もテツちゃんには普通に通院することができました。テツちゃんは天国で、お母さんありがとうといっていると思います。

草村 正人 (獣医師・新潟市)

＝毎月第2・4木曜掲載＝

